ズーム Lシックスmax

各部の説明（音声読み上げ用）

本体を、キーや端子、ノブが沢山ある面を上に向け、高さのある丸いノブが横一列に並んでいる方を手前にして置いてください。

次の順番でLシックスmaxの各部を説明します。本体正面、右ソク面、本体底面の順番です。なお、本体の手前の面、奥の面、左ソク面には何もありません。

# 本体正面

左から順に説明します。

## 一番左上に丸い電源キーがあります。長押しで電源をON/OFFします。

## 電源キーの右側にはコンボジャックが4つ並んでいます。左からチャンネル1、チャンネル２、チャンネル3、チャンネル４の入力です。それぞれのコンボジャックの左上、右下にある突起はねじです。

## それぞれのコンボジャックの下には小さな丸い突起が横一列に１つずつ並んでいます。これらはシグナルインジケーターです。各チャンネルに入力があると緑色に点灯します。クリップすると赤く点灯します。

## 4つのシグナルインジケーターのシタには、四角いキーが左側に3つ、右側に1つあります。左から説明します。

## 一番左のキーはチャンネル1のHi-Zキーです。押して点灯させると、チャンネル1の入力インピーダンスを切り替えます。

## その右のキーはチャンネル1、チャンネル2の48Voltキーです。押して点灯させるとチャンネル１、チャンネル２に+48Voltのファンタム電源を供給します。

## その右のキーはチャンネル2のHi-Zキーです。

## その右、少し離れたところにあるのがチャンネル3、チャンネル４の48Voltキーです。

## 48VoltキーやHi-Zキーの下には四角いキーが横一列に4つ並んでいます。左からチャンネル1、チャンネル2、チャンネル3、チャンネル4のミュートキーです。押して点灯させるとそのチャンネルの入力をミュートします。

## 4つのミュートキーの下に、丸いチャンネルエンコーダーノブが一つずつあります。左からチャンネル1、チャンネル2、チャンネル3、チャンネル4のノブです。ノブは、チャンネルのゲインや各出力への送り量、音質、定位の調節に使用します。ノブの周囲のLEDインジケーターの光り方で調節値を示しています。

## チャンネル４のコンボジャックの右側には1/4インチ TSジャックが、縦に2列、横に4列、計８つ並んでいます。縦2つのTSジャックが同じチャンネルの入力端子で、左からチャンネル５、チャンネル６、チャンネル７、チャンネル８の入力端子です。それぞれステレオチャンネルで、ウエがL、シタがRの入力となっています。

## 順に説明します。

## チャンネル５、チャンネル６について説明します。

## それぞれのチャンネルの入力端子の下に小さな丸い、横に動かせるスイッチがあります。PADスイッチです。入力信号を減衰させる量を設定します。左に動かすと減衰なし、右に動かすと20 dB、入力信号を減衰させます。

## PADスイッチの下にはシグナルインジケーターがあります。

## その下には四角い、MONOキーがあります。押して点灯させることで、チャンネル５またはチャンネル６をステレオ入力ではなく、モノラル二系統の入力として扱います。

## その下にはミュートキーがあります。

## その下にはチャンネルエンコーダーがあります。

## 次にチャンネル７、チャンネル８について説明します。

## チャンネル７、チャンネル８にモノラル入力をする際は、2つある入力端子のうち、ウエ側の端子に接続してください。

## それぞれのチャンネルの入力端子の下にあるのはPADスイッチです。

## チャンネル8のPADスイッチの下に小さな四角いラベルがあります。Lシックスmaxが32-bit float録音に対応していることを示すラベルです。

## チャンネル７のPADスイッチの下と四角いラベルの左下にはシグナルインジケーターがあります。

## その下には四角いUSBキーがあります。左側がUSB１/ ２キーで、右側がUSB３/ ４キーです。Lシックスmaxをオーディオインターフェースとして使用するときに押して点灯させることで、チャンネル７、チャンネル８にはTSジャックからではなく、USBケーブルからの信号が入力されます。そのあいだ、チャンネル７、チャンネル８のTSジャックからの入力はミュートされます。

## 各USBキーの下にはミュートキーがあります。

## その下にはチャンネルエンコーダーがあります。

## チャンネル８の右側には、四角いキーが縦に10個並んでいます。どのキーを押すかで、各チャンネルの一番下に並ぶ、チャンネルエンコーダーで調節できるパラメーターが変わります。キーの機能を上から順に説明します。

### 一番ウエのキーはHIGHキーです、高域の音量を調節します。その下のキーはフリークエンシーキーです、音量を調節する中域の中心周波数を調節します。その下のキーはMIDキーです、中域の音量を調節します。その下のキーはLOWキーです、低域の音量を調節します。

### LOWキーの下には、エーユーエックス1キーがあります。エーユーエックス1出力端子への送り量を調節します。その下のキーはエーユーエックス2キーです。エーユーエックス2出力端子への送り量を調節します。その下のキーはE F Xキーです。内蔵エフェクトへの送り量を調節します。E F Xキーの下にはSUB-MIXキーがあります。SUB-OUT端子への送り量を調節します。

## SUB-MIXキーの下にはPANキーがあります。左右の定位感を調節します。その下にはレベルキーがあります。音量を調節します。

## 次に、縦に並ぶ10個のボタンの右側の列を上から説明します。

* 上からMIDI IN端子、MIDI OUT端子、データ通信用USB Type-C端子があります。MIDI IN、OUT端子は1/8インチTRSミニジャックです。外部機器とMIDI信号をやり取りできます。データ通信用USB端子はスマートフォン/タブレットやパソコンと接続し、Lシックスmaxとファイルのやり取りをしたり、オーディオインターフェースとして使ったりできます。また、USBバスパワー動作に対応しています。
* データ通信用USB端子の下には四角いSOUND PADキーが縦に４つ並んでいます。これを押すことで、SOUND PADに割り当てた音声を再生できます。
* その下にはSOUND PADノブがあります。SOUND PADの音量を調節できます。最大と最小で回転が止まります。
* MIDI IN端子、MIDI OUT端子の右側に1/4インチTRSジャックが縦に２つ並んでいます。ウエがA U X１SENDの出力端子、シタがA U X２SENDの出力端子です。
* その下にはTAPキーがあります。このキーではTAPテンポの設定とAI Noise ReductionのON/OFFができます。内蔵エフェクトのDelay、Echoを選択しているときは設定されたテンポで緑色に点滅します。また、内蔵エフェクトのAI Noise Reductionを選択しているときはAI Noise ReductionがOFFのときに点滅、ONのときに点灯します。
* その下には、左寄りに、小さな丸い突起が６つあります。これらは、内蔵エフェクトインジケーターです。選択中の内蔵エフェクトに対応するインジケーターが点灯します。上から順に、AI Noise Reduction、Hall Reverb、Room Reverb、Spring Reverb、Delay、Echoのインジケーターです。
* その下にはSELキーがあります。SELキーでどの内蔵エフェクトを使用するかを決められます。キーを押すたびに内蔵エフェクトが順番に切り替わります。

## SELキーの下には、エフェクトリターンノブがあります。エフェクトからの信号の戻り量を調節できます。最大と最小で回転が止まります。

## A U X SEND出力端子の右側には1/4インチTRSジャックが縦に２つ並んでいます。ウエがMASTER L、シタがMASTER Rの出力端子です。

## その下には小さな突起が縦にいくつか並んでいます。マスターレベルメーターです。MASTER OUT L / R端子から出力された信号の大きさをマイナス48dBから0dBの範囲で示します。

## レベルメーターの下にはCOMPキーがあります。押して点灯させるとコンプレッサー機能を使用でき、MASTER OUTの音圧を上げつつ、音割れを防ぐことができます。

## COMPキーの下にはMASTER ノブがあります。MASTER L / R端子から出力される音の大きさをマイナス-∞から+20dBの範囲で調節できます。最大と最小で回転が止まります。

## MASTER L / R出力端子の右側には1/4インチステレオ標準ジャックが1つあります。モニターアウト端子です。モニターアウトの音量はこの端子のまっすぐ下にある、モニターノブで調節できます。最大と最小で回転が止まります。

## モニターアウト端子のすぐ下には小さな四角いキーが4つあります。これらはシーンキーです。各シーンキーを3秒間長押しすると、Lシックスmaxの調節値をそのシーンキーに保存できます。また、短く押すと、そのシーンキーに保存された状態を呼び出します。

## モニターアウト端子の右側には1/4インチステレオ標準ジャックが1つあります。SUB-OUT端子です。SUB-OUTの音量はこの端子のまっすぐ下にある、SUB-OUTノブで調節できます。最大と最小で回転が止まります。

## SUB-OUT端子のすぐ下には、小さな丸い縦に動かせるスイッチがあります。これはサブアウト出力切り替えスイッチです。上に動かすとMASTERと同じ音声を、下に動かすとSUB-MIXキーで設定した音声をSUB-OUT端子から出力します。

## その下につるっとした四角い部分があります。ディスプレイです。

## その下に小さな四角いキーが横一列に4つ並んでいます。これらはファンクションキーです。それぞれホーム画面での早送り、早戻しや、メニュー画面での各種設定に使用します。

## ファンクションキーの下には四角いキーが3つあります。これらは、レコーダー機能に関するキーです。左から説明します。

## 左のキーは再生/停止キーです。押すと録音したファイルを再生し、もう一度押して停止します。再生中は緑色に点灯します。

## 中央のキーは録音キーです。押すと録音を開始します。録音中は赤く点灯します。

## 右のキーはBOUNCEキーです。押すとバウンス機能を使用できます。

# 右ソク面

奥から順に次のように位置します。

## まず、電源用USB Type-Cの端子があります。USB Type-C端子にはDC5Volt出力のUSB ACアダプター（ZOOM AD-17）、または5Voltモバイルバッテリーを接続できます。端子の奥側と手前側の小さな丸は、ねじ留めです。その手前に、microエスディーカードスロットの蓋があります。本体正面側に爪をかける切り欠きがあり、正面側から底面方向に開きます。microエスディーカードを入れるときは、端子面をうら面にして、切り欠きが上になる向きで、カチッというまで押し込んでください。取り出す時はもう一度押し込んでください。

# 本体底面

本体を裏返してください。本体底面について、奥側から説明します。

## 一番奥の左端、右端に１つずつゴム足があります。左のゴム足の左上、右のゴム足の右上にある丸い穴はねじ穴です。

## 2つのゴム足の下には、四角いへこみがあります。ユーロラックアダプター（ERL-シックス）取り付け用の穴です。

## 2つの四角いへこみの間、中央寄りにある丸い穴はねじ穴です。

* ねじ穴からまっすぐ手前側に、電池カバーがあります。

## 電池カバーの下部にある2つの爪を上に押しながら持ち上げて開けます。この製品は単3電池を4本使用します。電池は、２本ずつ二列にして入るようになっています。電池を入れるときは、まず本体の電池収納部にあるリボンを上方向に引っ張ってください。リボンの上に電池が乗るように注意して、電池のマイナス側をバネのある側に合わせ、電池同士はプラスとマイナスが接するようにして入れて下さい。このとき、リボンを電池で挟まないように注意してください。電池カバーを付けるときは、リボンが電池収納部の内側に入るよう折りたたんで、カバーのウエ側にある４つの小さな爪を、本体の電池収納部のウエ側の穴に合わせて嵌めこみ、下側をカチッというまで押してください。

## 電池カバーの左側には四角いラベルが、その右下には細長い小さなラベルがあります。

## 本体背面の手前側、左右の端に1つずつゴム足があります。

* 左のゴム足の左下に丸いねじ穴があり、そこから右に行くと横に長い突起が2つあります。その右に丸いねじ穴があり、さらに右に行くと横に長い突起が2つあり、右端に丸いねじ穴があります。
* 横に長い突起には、穴が開いています。この穴はユーロラックアダプター（ERL-シックス）取り付け用の穴です。
* 取り付け箇所は、奥側のゴム足の下の2つの四角いへこみと、手前側の4つの横に細長い突起に空いた穴と合わせて、計6つです。

以上でLシックスmaxの各部の説明は終了です。

© 2025 ZOOM CORPORATION Z2I-5835-01